

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	政策研究大学院大学	整理番号	U01
プログラム名称	グローバル秩序変容時代のリーダー養成プログラム		
プログラム責任者	園部 哲史	プログラムコーディネーター	木島 陽子

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

<p>[総括評価]</p> <p>計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。</p>
<p>[コメント]</p> <p>リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、チュートリアル方式などを通じたきめ細かい指導や、学生によるセミナーの企画運営の促進等により、学生の研究調査能力・発信能力・組織化能力を向上させたことは評価できる。学位審査においても研究能力を見る博士論文審査に加えて、リーダーシップに関わる資質を判定する総合審査の2段階審査を行い、リーダー養成の目的に資する審査体制を確立しており、支援期間中の通算43名の参加学生のうち、令和元(2019)年11月時点で11名が学位を取得し、実績を上げている。ただし、中間評価でも指摘され、改善の努力もなされたが、43名の学生のうち、37名が留学生で、日本人学生が6名にすぎなかった点は、内向き傾向が強まっている日本人の若者をグローバルリーダーへと育成するという観点から、一層の努力が期待される。</p> <p>修了者の成長とキャリアパスの構築については、海外の行政機関からミッドキャリアの人材を学生として受け入れ、プログラム修了後に、元のキャリアに戻すというパターンが中心となっており、本プログラムで得た能力・経験・学位を基に修了者が元のキャリアの中で将来リーダー的地位を獲得する道を開くことに貢献していることは評価できる。一方で、「古巣」のキャリアを超えて、新しい分野、特にグローバルに活動する分野でリーダーシップを発揮できるキャリアパスを構築する観点からは、修了後に世界銀行への就職が決定している学生が1名いるものの、全体としては優れた成果をあげているとは言い難い。</p> <p>事業の定着・発展については、令和元(2019)年度より既存の大学院プログラムを本プログラムに統合して本プログラムの実質を継承させる制度改革を行い、代替的な奨学金利用の促進、社会人学生のための土曜日授業や夜間授業の拡充の検討など、学生確保に向けた工夫を行っていることは評価できる。しかしながら、本プログラム支援期間の後半は参加学生が急激に減少しており、事業の目的に合致する学生の確保の見通しは不明瞭である。博士学位を取得して国際舞台で活躍する海外の実務家のモデルが日本ではまだ十分受容されていないが、政策研究大学院大学の持つミッドキャリアの実務家の教育実績とコネクションを生かし、今後日本人が国際機関等においてグローバルなリーダーシップを発揮するためには、博士学位を持つ実務家の育成が必要であるという認識を、学生のみならず、官界・産業界にも広める努力を期待したい。</p>